

宮崎支店 働きやすい農業現場とは 新しい農福連携を学ぶ

農福連携に取り組む京丸園株式会社（静岡県浜松市）代表取締役の鈴木厚志氏を講師に迎えた研修会を、一般社団法人宮崎県農業法人経営者協会と共催。「気が付けば4分の1が障害のある社員」「ユニバーサル農業」京丸園の農業／福祉／経営」と題した講演を農業経営者など51人が聴講しました。

鈴木氏は「障がい者が働きやすい職場は他の人も働きやすい」と、多様な人が参画できるユニバーサル農業の強みを力説。出席者からは「人材不足を見据え、対応するための参考にしたい」との感想が寄せられました。（6月28日）



講演を熱心に聞く参加者

高知支店 県内新規就農者同士の ネットワーク構築を応援

高知県、一般社団法人高知県農業会議と「こうち新規就農者交流会」を県内で初めて開催。新規就農者26人に加え、行政や民間金融機関などを含む計59人が参加しました。上級農業経営アドバイザーの資格を持つ公庫職員による「稼げる農業経営のススメ」をテーマにした講演や、県内の先輩農業者と支援機関のグループディスカッションなどもおこなわれました。

参加者からは「経営や販路確保などについて、さまざまな考え方を知ることができた」など多数の感想が寄せられました。（7月7日）



経営の悩みや目標などについて活発に意見が交わされ、新たなつながりができました

山形支店 有名料理店のシェフと きこの料理の試作会

きこの産地である山形県最上地域の若手生産者で構成される「Professionalきこの山形」と、四川飯店ほか東京都内のシェフ2人を招いて試作会を開催。まいたけやマッシュルームなどを使用して、四川風とり鍋を含む4品目を試作しました。

参加した7人の生産者は、「高品質な山形きこのこを、都内の消費者の皆さまにご賞味いただきたい」と話していました。

この試作会を踏まえ、四川飯店では後日、山形きこのこを使用したメニューを提供予定です。（7月11日）



試作するシェフの様子を見学する参加者

情報部 タイ農業・協同組合省が来庫 企業 農業融資について意見交換

タイ農業・協同組合省の農地改革局10人（局長、国際担当官ほか）が公庫本店に来訪し、タイ大使館による通訳を交え、融資制度や融資審査について意見交換をおこなっていました。

公庫からは、日本の農業金融の仕組みや公庫融資の状況、資金制度、審査の考え方を説明。

農地改革局からは、タイの農業金融が抱える課題や同局の取り組みに関する説明の後、公庫に対し、資金制度が決まるまでのプロセスや融資後のお客さま支援の方法など多くの質問がありました。（7月11日）



公庫の説明に熱心に耳を傾ける農地改革局長（前列左）



「国のめざす方向を知ることができた」などの感想も聞かれました

鹿兒島支店 **持続性の高い農業経営へ
最先端スマート農業を学ぶ**

農業経営者を支援する方々が集う「第31回かごしま農業経営研究会」を開催。農業経営アドバイザーのほか、地域金融機関・地方公共団体職員や農業経営者など、オンラインも含め81人が集いました。

農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課専門官の山本将平氏より「みどりの食料システム戦略」について、株式会社クボタ技術顧問の及川一也氏より最先端のスマート農業技術について全国の事例を交えた説明があり、参加者からは、「鹿島でスマート農業を推進するための助言が欲しい」などの希望が寄せられました。（7月21日）



ペレット堆肥に関する養鶏農家の説明を熱心に聞く参加者

前橋支店 **耕畜連携に関し情報交換
物価高への活路を模索**

飼料高騰や堆肥処理に悩む畜産農家と、飼料作物や化成肥料削減に取り組む耕種農家が、耕畜連携に関する情報交換会をおこないました。これは他機関での対応が困難な「業種や地域を超えた連携」について、公庫が主体的に促すことで実現したものです。

8人の参加者からは、「二毛作地帯特有の問題や酪農経営を取り巻く苦境などの説明があり、「両者の置かれた状況の理解が連携の第一歩」との声が寄せられました。また、取引条件に関する交渉がおこなわれるなど、今後の連携の一助となる会になりました。（7月25日）



現地視察で生産技術について意見交換をする組合員と内野上級研究員

大津支店 **子実コーン産地化を支援
農研機構との勉強会開催**

子実コーンの産地化をめざす滋賀県子実コーン組合に対し、生産・保管技術の課題解決のため、子実コーン研究に携わる農研機構の内野宙上級研究員を招いて勉強会を開催。15人が参加しました。現地視察の後、「遅播き（夏播き栽培での多収実現に向けた課題）」をテーマに講演と意見交換会を実施。

参加者からは、「今後も現地視察を含めた情報提供を続けてほしい」などの前向きな声が寄せられました。また、勉強会には県農業普及組織も参加しており、地域振興での連携強化につながりました。（7月28日）



日本公庫 **ダイレクト**

会員登録とお取引先さま専用サービスの利用申請方法はこちらから

左記の二次元コードにアクセスしていただくと、会員登録や利用申請に関する手順を動画でご覧いただけます。「お取引先さま専用サービス」のご利用をぜひご検討ください。

新企画 **お取引先さま専用サービスの
ご利用をご検討ください**

日本公庫の会員専用インターネットサービス「日本公庫ダイレクト」で、2022年12月から提供を開始している「お取引先さま専用サービス」をご存知でしょうか。お取引状況の照会や残高証明書・償還予定表の発行など、お客さまの各種手続きのご負担の軽減や迅速化につながる便利なサービスです。

農林水産事業と直接お取引のあるお客さまが対象で、ご利用には日本公庫ダイレクトに会員登録のうえ、別途「お取引先さま専用サービス」の利用申請のお手続きをいただくと必要があります。

みんなの広場

災害のお見舞い

大雨による災害で被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

令和5年5月28日から7月20日までの間の豪雨及び暴風雨による被害を受けられた農林漁業者などの皆さまの、ご融資やご返済に関する相談を受け付けています。本店農林水産事業本部（フリーダイヤル：0120-1926478）および全国の各支店農林水産事業にお問い合わせてください。

◆春2号の表紙の朝陽の差す棚田の美しさにほっこりしました。

私の故郷は広島県北西部の村里で、水田は今のよう^はに圃場整備されておらず、この表紙の写真のように、狭い谷間に段々と、不規則に存在していました。

田植え時期には私たち小学生も貴重な労働力として動員され、村の小学校には数日「田植え休み」があったほどです。田植えは本当に大変な作業でしたが、その合間に級友たちや先生方と畦道でくつろぎ、おむすびを食べ、麦茶を飲みながら自分の将来のことなどを楽しく語り合ったものです。戦後間もないころで村にはなんの娯楽もなく、田植えは一種のレクリエー

ションだったように思えます。もう70年も前の光景が走馬灯のように思い出されます。

（広島県広島市 内剛）

◆春2号の特集「有機農業の現在地と針路」を拝読。特に山田優氏の記事は興味深く、小規模な個人経営が主力の日本の農業は、世界を見据えて成長していかなければならない時期にきていると感じた。

イオングループのような大手企業の有機農業への参入は、業界への大きな刺激となり、有機農業への関心が今以上に高まるだろう。私たち消費者も、世界で有機農業が広がっていることをもっと認識する必要がある。

（広島県広島市 巨幸男）

編集後記

④魔の川、死の谷、ダーウィンの海。研究開発から事業化までに立ちほだかる3つの障壁を表す経済用語だが、乗り越える鍵は、時代の変化や市場ニーズに柔軟性とスピード感を持って適応することのようだ。

革新的技術で高齢化や担い手不足などの課題の解決に導く多くのスタートアップが登場し、業界が活性化することに期待したい。（細谷）

⑤ここ数年、取材を悩ませる梅雨時の台風。「新・農業者」でお伺いした7月の佐賀県も取材当日は広範囲で雨が降り、道路が不通となつて大分在住のカメラマンも来るのがやっと。ただし取材地の太良町は取材を歓迎するように雨が上がりました。好天の下、感情豊かな原さんご夫妻の表情を的確に捉えた写真をお楽しみください。（高雄）

⑥「地域再生への助走」、下呂市はスタートアップと連携し、耕作放棄地の現地確認作業の大幅な効率化を実現。驚いたのはその取り組み内容もさることながら、下呂市が自治体における「ファーストベ

ンギン」となり、前例のない事業にも臆さず取り組む姿勢でした。よいものは取り入れようとする柔軟性、ぜひ見習いたいです。（大谷）

⑦「耳よりな話」の中島さんがめざす植物病院は、農産物の損失を減らすばかりか、新市場を生み出し、地球規模の飢餓を撲滅させるといえます。スタートアップ創出元年から一年。さまざまな振興事業がつくる未来はまだ想像できませんが、「世の中をよくしたい」という想いと行動が、世界を大きく変える可能性を感じました。（竹中）

AFCフォーラム 2023.9 夏2号

- 編集
前川 紘輝 細谷 哲郎 高雄 和彦
大谷 香織 澤田 真理 鈴木 晃子
竹中 夕美
- 編集協力
金子 弘道
- 発行
株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部
〒100-0004
東京都千代田区大手町1-9-4
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー
Tel. 03(3270)2268
Fax. 03(3270)2350
E-mail anjoho@jfc.go.jp
ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>
- 印刷 株式会社第一印刷所 東京本部
東京都台東区根岸2-14-18 第一根岸ビル

ご意見をお寄せください

本誌への感想やご意見などを、メールやFAXなどでお寄せください。掲載させていただいた方には薄謝を呈呈します。

こちらからもどうぞ→

【送付先】
メール: anjoho@jfc.go.jp
FAX: 03(3270)2350

